

---

# いじめ？嫌、遊んでるだけだから

久能とーご

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

いじめ？嫌、遊んでるだけだから

### 【Nコード】

N9461G

### 【作者名】

久能とーご

### 【あらすじ】

いじめを受ける側の視点の話は割りとたくさんあるいじめをする側のもあるんだろうこれはいじめをしていた側のいじめが発覚後の出来事を本人の視点から書いたものです主人公（和田）はいじめをしていた自覚は無く友達同士の戯れからエスカレートしただけのもだからとやったことを軽く見ています。内容は誰が見ても酷いことですが彼らにはその自覚は無いのを前提で読んでやってください

## 和田祐太の一年間

### ・エピソード

中学生つてのは一番微妙な年齢だと思わないか？

だってそうだろ？身なりは高校と変わらない制服なのに行動は小学生だ

あの年齢は自分がやった事をあとになって後悔する人が多いと思う。俺もそうだから

これから書くのは一人の男子中学生の話

彼は友達がいた。山崎、柳田、茂森の3人だ

中2の時から放課後鬼ごっこをしたり色々遊んでいた

山崎は俺の部活仲間、柳田と茂森は山崎経由で友達になった。山崎は髪を茶色に染めた顔立ちのいいやつでよく俺と渋谷に遊びに行っていた。柳田は少し太った奴で別にコレといった特徴は無い。茂森はいじられキャラだった。

ほら、ロンドンブーツだかあつしだっけ？アレがたまにやる一人の芸人をハメて皆でその姿を笑うやつ、あんなノリで茂森に荷物持ちさせたり雪合戦の時わざと集中したりしたんだ

たまにあるだろ？友達同士じゃあうのはさ、ただね、人間は慣れるし飽きるんだ

少しずつ少しずつエスカレートしていき最後にはとんでもないことになってたりするんだ

今から話すのはいじめをした側のいじめが発覚した時からの話だ。いじめをしているという自覚がある人は少ないだろう。だからドッキリとかその手の好きな人は読んで欲しい

まあ、ただの小説だからな？うん、この意味わかるよな？

じゃ、読んでやってください

5月3日

いつも通り朝学校に行くと先公がつつ立ってた。

化学の大山先公だ

ま、どうでもいいからスルーしたが呼び止められた

「ちょっと来なさい」

そう言っただけ俺は面談室に入れられた。

面談室ってのはウチの学校にある用途のよくわからん部屋で狭く窓が無い部屋が3つあるんだ

俺が一番奥に入れられた

「ちょっと待ってて」

そう言っただけ大山は行っちゃまった

しばらくして大山と担任の山本が来た

「なんで呼ばれたかわかる？」

知るかよ。こちらら学校じゃいい子ちゃんやってんだろ？成績は頭から400人中20番以内に絶対入ってるし学級委員だってテメエが押し付けるからやってやってるだろ？

10分くらいしたあとだったか、

「茂森の事だ。あいつに何をしたかわかってるよな？」

なんでも茂森が学校に行きたくないと言いだししかも俺らに会うのが嫌と言っただけらしい

はて？そんな酷いことしたか？

確かに荷物持ちにスパーリング相手、あと先に帰らねえようサイフ

と定期没収はしてたけどよ。あと5000円のナイフを5000円で売り付けたり

まあ、今見たら最悪な事ばっかだが当時は全然罪悪感は無かった

なんでも茂森の親は身障入ってて過剰反応しちゃってるらしい  
学校側は俺達を監禁、事情聴取とかをやることにしたんだと

まあ、2〜3日したら茂森来るだろうし謝ってまた遊びに行くかな

これが甘すぎる考えだったと知るのはあと7日間後だったかな？

## 人生最大の苦しみ（前書き）

今回から出てくる西巢鴨中学は仮の名前です

## 人生最大の苦しみ

ああ、いい加減つらい

クソ教師共・・・

俺達は毎日毎日学校に来ては軟禁される生活をしていた

なんでわざわざ学校行くかって？学校側は来なくなつて欲しいと思つてるからさ

俺達は負けねえぜ？毎日来てやらあ

とはいえ一人面談室に引きこもるのは辛いから先公がいない時はお互いに部屋を尋ねたりした

励みになつたね

俺には友達はコイツらしかいないからな、

私立だから住んでる場所は離れてつから休みには簡単には会いにくいんだよね、だって中学生だし金無いじゃん？

しばらくして暇だから親指だけで腕立て伏せしてたら先公が入ってきた

「5月31日に君らの処分は決まるから17時に親御さんと来るように。場合によっては退学もあり得るからそのつもりで来るように」

ハイハイやつとかよ

ようやく軟禁生活が終わるぜ

どうせ停学か校長訓告で終わりだろ？毎日毎日アホみてえに退屈さ

せやがつてさあ

退学？別に怖かねーよ、3人で残れるか否かだろ？いいさ、3人運命共同体なんだ、それに退学になったら共学に行けるしな（笑）

31日までは早かった

毎日いつも通り軟禁され時々抜けて皆で会ったり先公から事情聴取されたりの繰り返しだ

5月31日

俺は和田だから処分言われんのは最後みてえだ

気分は処分を下される人間のものとは思えないほど楽だった  
だって途中山崎にすれ違った時軽く笑って親指をたてたんだ！

セーフだったんだな！どうせ皆同じ処分なんだ、俺もセーフだろ？

ほら、校長が

「校長訓告にする」とか言ったぜ？次は無い？知るか、3人また通えるならそれでええわ（笑）

6月1日

雨だ

嫌な天気だ

処分が下ったのに茂森の奴がまだ学校に来てないしいたら来にくい  
だろうからまだ面談室にいろつてさ

やれやれ、なあ？皆？

．．．．．なあ、なんで今日はこんな静なんだ？．．．．．  
．．．いつも壁を叩いたら叩き返してくれたよなあ．．．．．  
．．．なあ？いるんだろ？．．．．．いるんだよな？．．．．．

俺は言いよの無い不安に襲われた

自分のいる面談室を出て隣の部屋に行こうとしたが扉の前で足が止  
まっちゃった

．．．．．もしいなかったら．．．いや、いるさ．．．ふざけてるんだろ？．．  
．．．．．

その時さ、俺、気付いたんだよ

面談室はいつも扉の札が

「使用中」になつてるハズなのに今日は二つとも

「空室」になつてんだよ

俺は扉を開けた

二部屋とも中は真っ暗だった

俺は気付いた

ザキがなんであん時笑ってたのか、あれは俺がセーフなのを先公から聞いて知ってたんだ  
だからだったんだ

俺一人でもセーフだったことを喜んでくれてたんだ

俺は自室に戻り机と椅子を床に叩きつけ狂ったように暴れた  
ひとしきり暴れた後泣いた

心の中にいきなり空洞ができたような辛さ、苦しき、悲しき、全てが襲ってきた

俺は一人になってしまった

しばらくした後先公が入ってきて俺に言った

「茂森君の親御さんに処分について電話したら不満だったらしく警察に被害届を出したそうだな、そこで学校側は処分を撤回しやり直すことにした」

ただ学校側は生徒が警察沙汰をやったのを消したかったからだろう  
普通なら不満に思うだろうが俺はもうまともじゃなかったから何も  
思わなかった

6月8日

和田祐太は退学になった

和田祐太を学校に残したかったのは学校側が軟禁中にも関わらず中  
間審査で学年一位をとった俺を消したくなかったからだ  
ちなみに山崎は50位あたりで柳田は80位くらいだった

その夜

和田祐太は山崎と電話をした

お互い強く生きようと、新しく全てを忘れ生きていこうと  
最後にかわした言葉だ、

「じゃあな、また会おうぜ親友！」

「おう、またな、相棒」

数日後に俺は転校した

地元の学校には行きたくなかったから無理を言って違う地区の・・・  
・・・じゃあ仮に名前を西巢鴨中学としよう  
そこに転校した

俺は全てを新しくスタートするつもりだった、過去を反省して二度  
と同じ過ちをしないと誓い通いはじめた

だが過去は俺を許さなかった  
執拗に俺にまとわりついていた事に気付くのはまだ先だった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9461g/>

---

いじめ？嫌、遊んでるだけだから

2010年11月18日03時01分発行